



佐藤 未雲
さとう みくも

スペースチャイナ代表取締役

去年の夏、娘が生まれ私も母親になった。出産後、母乳がうまく出ず、子育ての不安に押しつぶされそうになったことがある。生後1週間の娘を抱いて、泣きやまないわが子と一緒に泣いたのが昨日のごとのように思える。今、1歳3カ月になった娘は活発に走り回り、おしゃべりも日増しに上手になっている。

現在私は、彼女を保育園に預けて仕事に復帰している。保育園に行くようになってしばらくは平穏な日々もあった。仕事の勤を取り戻して頑張ろうと思った矢先、高熱を出したり、中耳炎になったりということが始まった。

南風

ういう日々を繰り返して母親というのは強くなるのだろうと、このころやっと思えるようになった。

かつて、中国のほとんどの大手会社には、保育園や幼稚園等が備わっており、私たち4姉妹も皆、母の勤め先の保育所に預けられていた。保育所は母の職場と同じ敷地にあるので何かあればすぐに母が駆けつけてくれた。

働きながら4人の子供を育て上げた両親の苦労もさることながら、このような育児サポート体制があったからこそ、母は育児と仕事の両立ができたのだろうと思う。

私の場合、夫や姉たちのサポートもあって、子育てをしながら働くことができていた。来年には第2子も誕生の予定だ。

しかし、沖縄では働く母親が多く、待機児童数も多いという現状がある。仕事を持つ母親の一人として、この厳しい状況の改善を願わずにはいられない。

子育て奮闘記